

京都新聞

4月29日 日曜日

京都新聞社
〒600-8111 京都府京都市下京区西ノ京1-1-1

京に次ぐ梅

梅の花が咲き出す。春の訪れを感じる。梅の花は、京都府の各地で咲き出す。梅の花は、京都府の各地で咲き出す。梅の花は、京都府の各地で咲き出す。

日米首脳電話会談

拉致解決働き掛け一致

米朝会談へ 北朝鮮を注視

【ワシントン28日AP電】米朝首脳電話会談で、両国は拉致被害者の帰国と北朝鮮の核・ミサイル開発の凍結に関する協議の進展を歓迎した。米朝首脳電話会談で、両国は拉致被害者の帰国と北朝鮮の核・ミサイル開発の凍結に関する協議の進展を歓迎した。

【ワシントン28日AP電】米朝首脳電話会談で、両国は拉致被害者の帰国と北朝鮮の核・ミサイル開発の凍結に関する協議の進展を歓迎した。米朝首脳電話会談で、両国は拉致被害者の帰国と北朝鮮の核・ミサイル開発の凍結に関する協議の進展を歓迎した。

車窓越しに 初夏の足音

大分県佐賀郡の山間部には、初夏の足音が響く。大分県佐賀郡の山間部には、初夏の足音が響く。大分県佐賀郡の山間部には、初夏の足音が響く。



こころのアトム化

「アトム」は、現代の若者が憧れるキャラクター。アトムは、現代の若者が憧れるキャラクター。アトムは、現代の若者が憧れるキャラクター。



アトムは、現代の若者が憧れるキャラクター。アトムは、現代の若者が憧れるキャラクター。アトムは、現代の若者が憧れるキャラクター。

米韓首脳も電話会談

【ワシントン28日AP電】米韓首脳電話会談で、両国は北朝鮮の核・ミサイル開発の凍結に関する協議の進展を歓迎した。米韓首脳電話会談で、両国は北朝鮮の核・ミサイル開発の凍結に関する協議の進展を歓迎した。

竹本住太夫さん死去

人間国宝の文楽太夫 93歳



【大阪28日AP電】人間国宝の文楽太夫竹本住太夫さんが、28日午後1時、大阪府堺市で死去した。享年93歳。竹本住太夫さんは、文楽の太夫として活躍した。竹本住太夫さんは、文楽の太夫として活躍した。

竹本住太夫さんは、文楽の太夫として活躍した。竹本住太夫さんは、文楽の太夫として活躍した。竹本住太夫さんは、文楽の太夫として活躍した。

きょう29日は肉の日
FUJII DAIMARU
ステーキ、ハンバーグ、焼肉などの特典メニューが豊富です。

万波整形外科
院長 万波 隆夫
〒600-8111 京都府京都市下京区西ノ京1-1-1

京大の立て看板規制に反発
学生側の感情はほどこへ、立て板に冷や水。京大の立て看板規制に反発。学生側の感情はほどこへ、立て板に冷や水。

Q&A 教師のための救急百科
学校におけるがん教育の考え方・進め方
大塚書店

池上彰の世界の見方
朝鮮半島
小学館

旅に出なくなる地図関西
帝国書院

新Aクラス 代数問題集
新Aクラス 幾何問題集
再編集出版

新しい薬理学
ルビーン病理学
西村書店

天眼

こころのアトム化

『6時朝の体操』、6時10分「レコード・コンサート」、7時「ニュース」、8時「モーリス記者講習」、9時朝の宗教講話、9時30分「机の上農村探訪」、10時「ペーターウエン」フリートとピアノのためのソナタ」、10時30分「農村むけの講演」、10時45分「世界の出来事」……

スイスの思想家、マックス・ヒカールトが「人格のアトム化」(1958年)という論考の中で引いたラジオの番組表である。現在のわれわれからすれば、午前中だけでも複数の講演や演奏があって、のどかな感じ



鷺田 清一

う精神の危機をヒカールトは、精神の核が次々と分裂してゆくこと、つまり「アトム化」と名づけたのだ。

なるほどと思わないでもない。現在ではニュース番組すらCMでたびたび中断され、しかもおおよそ15秒単位で五つも六つも割り込む。ヒカールトなら呆倒るにちがいない。が、これらの番組が一つのストーリーにまとめられて、どこかの独裁国の国営放送のようになっただらたまらない、という思いも強くなる。

健忘という、大学病院の医師。ミュージシャンの大友良英さんとの対談本「見えないものに、耳をすませ」のなかで、彼は次のように語る。

ラジオで大友さんの音楽やトークを聴きこんでいたとき、間にCMとニュースが入り、ある少女の誘拐殺傷事件のことを知らされた。人の心にそんなふうにはびこるものは、精神的なことだが、それを当然のように受け入れているうち、人の感情は毛ザイクのようにぼろぼろにされてゆく。誰かの死ですら一片の情報にすぎなくなると、人を怖む気持ちもすっと立ち上がらない。「電車が人身事故で止まった時、車内で誰かが舌打ちしたりする光景が、すごく怖いんです」と、稲葉さんは言う。

稲葉さんの述懐にふれて思うのは、われわれの意識の生地が、乾いた土のようになびき割れを起こしているのではないかと。ヒカールトの言葉でいえば、われわれの内なる世界への対抗力が消失しかけているのではないかと。ここぞ、ハイトスビーチや、ここ数日の、官僚のセクハラ疑惑への政権側の政治家たちのひどく無神経な発言にも、おなじような精神の崩壊を感じる。

希望や悔恨、祈願や哀悼、機微や共感といった人間的な感情は、いまここにはないものへと思いをたなびかせる、そういう想像のはたらきによつて養われる。その養いを拒むものが、現代、ヒカールトの時代以上に深く、メディアやIT環境の中に巣くっているのではないか。

(京都市立芸術大学長、哲学)